

2019年8月22日～27日 カンボジア訪問

舟越和代

今回はセカンドハンドの渡航スケジュールの一部、プノンペンとその周辺の小学校とヘルスセンター訪問にご一緒させていただきました。また、セカンドハンドの支援を受けていはる、あるいは、過去に受けていた人たちにもお会いできました。その方たちとの交流から感じたのは、カンボジアの方たちが未来に向けて活力ある生活をしていること、家族を大切にしていることでした。その中でカンボジアの子育て状況の一旦を知ることができました。そのいくつかを以下に述べます。

1. 家族全員で子育て

カンボジアの人たちの家族の概念は広いと感じました。祖父母、親、きょうだいだけでなく、叔父叔母、いとこやはどこも含め、一緒に住んでいたり、近くにいればみんな家族と認識していました。学校で「あなたの兄弟は？」の質問に複数人いると答えた女の子が実は一人っ子でした。その子は、一緒に住んでいるいとこも兄弟と思っていた。また、ホームステイした学生さんの食事をつくってくれたのはお姉さんでした。両親は祖父母の世話で不在でした。大家族で助け合って暮らしている様子が窺えます。また、プノンペンで働いているカンボジア在住の日本人の方から「子どもは近々妻の実家に連れて帰る予定。妻の実家は田舎で遠いが、妻の家族がいるから。その方が子どもを育てるにはよい環境」という話を聞きました。奥様はカンボジアの方で出産されたばかりです。日本が今抱えている孤立する子育て、待機児童問題とは別次元の問題だと思いました。

2. 収入があれば子育てにお金を惜しまない

病院での出産費用は1000ドルということで、決して安くない値段でした。でも、安全性を考えると設備が整ったところでお産をしたいと思っているようでした。また、お話を聞かせていただいた方の毎月の収入300ドル中100ドルは、子どもの為の出費（ミルクやおむつ代など）ということでした。これから子どもたちに教育を受けさせる為の努力も惜しまないだろうなと思いました。

3. いろんな境遇の子どもたちが混在

裸足で粘土状になった土地や土ぼこりの道で遊んでいる子ども達、7、8人で荷台車に乗せてもらって楽しそうに笑っている子ども達、イオンに家族といっしょに来て食事をしている子ども達など、どの子もかわいくて目が輝いていました。入院中の子どもはちょっと辛そうでしたが、どの子にも心配そうな母親が付き添っていました。受診する外国籍の親が通訳に子どもを連れてくるということもありました。日本の貧困問題は、栄養管理ができていないための肥満が問題という話を聞いたことがあります。カンボジアでみかけた子ども達には肥満の問題はなさそうでした。

これらの子育て状況の見聞から考えたこと

カンボジアの発展には子どもの教育が一番必要だと思います。しかし、近代化の中で貧富の差も出てきていて、いずれ、今までとは違った新たな教育格差も出てきそうです。でも親が子どもを思う気持ちは誰にもあると確信しました。若いお父さんお母さんが子ども達にしっかり愛情を注ぎながら生活できる環境づくりをすることで、将来のカンボジアを支える人が育っていくように思います。